

図1 株揃え機



サトウキビハーベスタは地上部のキビを刈り取るが、畑に大きな石などがある場合刈り取り刃を地上に浮かして高刈りする。株管理機とは株揃え機とも呼ばれ、石垣島で3台が稼働している。地上の芽を切り捨て、地下からの芽を育てるために2基の回転刃で地下5cmほどの深さで株を水平に切戻しをする。同時に中央部に溝を作りその溝の中に肥料農薬を

落としていく。

株揃え機実演動画 <http://www.youtube.com/watch?v=VgWzN2btOl8>

サンゴ礁基金から株出し栽培への移行支援として株管理機10ha(10a@3500円)35万円さらに八重山地区糖業技術研究会でも趣旨に賛同して10万円出していただき、株出し支援対象面積が13町歩に広がった。

2010年12月サトウキビ収穫を前に地区の公民館でキビ農家懇談会があり、製糖工場や普及所、原料員からのキビ収穫の段取りなどの打ち合わせが行われた。サンゴ礁基金からもスライドを使ってキビ株出し支援の説明を行わせてもらった。



図2 2010.12.3 キビ生産者懇談会双葉公民館



図3 2010.12.8 キビ生産者懇談会名蔵公民館

今まで春植えの株出しは普通だったが、夏植えの株出しはここ数十年間出来ないものだと体験していて、もし失敗すれば高価なベイト剤、肥料などの費用その他除草剤散布、補植、根切りなど手入れ作業が無駄になってしまう。普及所の実験圃場では上等な結果が出ているが、個々の農家の畑でうまくいくか保証はないのだ。

それでも普及所、製糖工場、原料員、JAのかたがたの協力で13町歩のキビ畑で株出し栽培プロジェクトを受け入れてくれる16農家が決まった。

図 4 株出し支援対象畑



	
<p>株出し発芽状態良好</p>	<p>株出し発芽遅れている。</p>
	
<p>キビ栽培三方式のうち、左が春植え右が夏植え。今雨が降ると左の裸地赤土流出が多い。</p>	<p>収穫後 1.5 ヶ月経過株出し良好。左の畑は春植え用スキ起こし作業で土が露出している。</p>

キビの品種によっては株出しの芽が出てくるのが遅いものがある。もう少し発芽状況を見て、発芽数が少ない畑にはその原因究明と何らかの対策を行わなければならない。
 現在考えているのは、発芽の悪い圃場へのキビ苗補植作業への支援である。